

どうしん電子版! いつでも朝刊読めます!

スマホで!タブレットで!パソコンで!
紙面を丸ごと読むことができるサービス、「どうしん電子版」!
購読料プラス 0円



「どうしん電子版」は、道新を月決め料金で定期購読している方なら、無料で登録できる電子版会員限定のサービスです。



お問い合わせは

0120-889-104



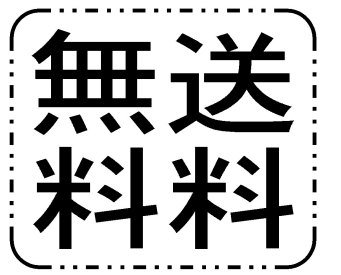
出勤のときはマスクをつける。外すときもなるべく、勤務時間中はできるだけマスクをつけ、手洗い・消毒は頻繁にする。支所の窓口には感染防止用のビニールをぶら下げたが、住民との距離感が気になる。清掃作業は気を付ける箇所が増え、会議開催は3密に気を遣う。帰宅すると一番に手を洗い、マスクを外す。できるだけ家に居るようにし、不要不急の外出はしない。夜の繁華街などはできる限り避ける。なじみの店は潰れてないだろうか? 確認に行きたいがそうもいかず、多少心配になる。毎年見に行っていたプロ野球は開幕したが、テレビでしか観戦できず、

「アベノマスク」が来たのは6月17日だったか。しかしそのときすでに我が家は不織布マスクの在庫十分。定額給付金は最終的には電子申請よりも郵送申請が奨励された。国の政策は何かちぐはぐな感じもするが、仕方ないか。北海道は今でも毎日のように感染者が報道されるが、十勝は4月23日以来感染者は一人も出ず、感染者もすでに健康観察終了済み。いつもの日常が一変して随分たつが、感染症対策に関する取り組みは「新しい生活様式」として改めて定義づけされた。気を付けることが増え、楽しみにしていたことが減ったけれどどうにもならない。一日でも早く新型コロナが終息し、楽しみにしていたことを心置きなく出来る日常が来ることを楽しみに日常を過ごしています。



新得町役場屈足支所長 岡村 力蔵

「新型コロナウイルス」



当販売所では様々なジャンルの書籍、雑誌、文庫、新書、週刊誌の定期購読など、ほとんど全ての出版物を確実に届けてお寄せします。今読みたい話題作! 欲しい本をお取り寄せ!

気軽に問い合わせください。通販は送料が掛かりますが当販売所は無料です。※当店取り置きとなります。宅配サービスは致しません。

「少年の非行防止について」



佐口 賢人 巡査部長

No.2

学校で夏休みが始まります。夏休みは、解放感から少年が家出、深夜徘徊等の不良行為や薬物乱用などの非行や、家出にあつては福祉犯等の被害に遭うケースが多くなる懸念があります。防止するためには、子供に対して

- 万引き・喫煙・飲酒・薬物乱用の禁止
- インターネットの使い方等について、指導をお願い致します。
- 子供が行き先を告げずに外出したり、帰宅時間が不規則になり、深夜遊びや外泊が多くなった
- 親に隠れて長時間携帯電話を利用したり、知らない人からメールが届くようになった
- このようなことを感じたら、危険な兆候として注意してみてください。



道新五月号のポケットブックの御案内です。



▼ポケットブック5月号「町の鳥 野の鳥」自然に恵まれた北海道は「野鳥」の宝庫。本誌では、市街地でも見られる野鳥を「町の鳥」、主に郊外をすみかにしている野鳥を紹介。配布済み

六月ポケットブックは休みです。

次号七月予告。

「たまごレシピ」

卵は私たちの暮らしに身近で使い勝手のよい食材です。卵を使った主食をはじめ、おかず、手軽に調理できるレシピを紹介します。お楽しみに。

連続小説

完 走

赤池武臣

男がまた怒鳴った。二キロといえばタイムにして十分少々だ。あと十分、あと十分。良太は心に秒針を刻みつけた。

前方に走者の姿はすでに無かった。だがこれで完走だけは出来る自信がついてきた。一キロも走っただろうか。それまで足を着くたびにキュツ、キュツと鳴っていた左足の蹠(かかと)の辺りに針を刺したような痛みが走った。やがてその痛みは右足の腫にもきた。「畜生ッ。今度は肉刺(まめ)だ」

「どうした。また腹か」三輪車の男が怒鳴った。良太は人さし指で足の蹠をさした。「足ッ。足って・・・引きつりか? なにッ。肉刺・・・今度は肉刺か」男の溜息が聞こえた。

「どうだ。あと一キロ弱だが・・・頑張ってみるか・・・そうか、無理せず、ゆっくりな」良太は、靴も靴下も脱ぐと三輪車の荷台に放り投げた。

幼い頃から良太は裸足を裸足で過ごした。良太に限らず、皆裸足で育った。正直いって今日のマラソンも良太は裸足の方が性に合っていた。

一人の夜の練習はいつもそうだった。だが今日は人の目があった。母はなげなしの財布をはたき、親指の付いている布製の靴を買ってくれた。

去年、運よく二等賞を取ったことで、あるいはとの思いがあったのかも知れない。が、まだから何が何でもとの気持が強かった。が、またしてもその思いやりが裏目に出ってしまったのだ。

「負けた」良太は再び走り出しながらつぶやいた。「だが、勝負はまだ終った訳じゃない」とも思った。

そうだ。まだ終った訳じゃない。こうなった以上は完走することだ。せめて完走することで、自分にけじめをつけたい、そう思い直した。